

特定非営利活動に関する外部評価の評価項目について

評価対象法人	特定非営利活動法人花山星空ネットワーク
評価実施年月日	2024年6月21日
評価者氏名（職名）	太田 耕司（京都大学大学院理学研究科教授）
評価対象年度（期間）	2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）

1 法人の事業活動、組織運営等に関する状況

(1) 事業活動について

ア 事業計画等を策定しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 各事業年度の事業計画は、組織的な合意形成（総会・理事会等）に沿って策定しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 法人の目的を達成するための中長期的計画を策定しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イ 法人の目的を達成するための事業を主たる事業として実施しているか。

法人自己評価		外部評価	
はい	いいえ	はい	いいえ
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

→ 法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目		法人全体の労力のうち 各項目が占める割合 (※1)
事業 (※2)	主たる事業	第1位：天体観望会事業 30%
		第2位：天体観測体験教室 25%
		第3位：刊行物やHPによる情報発信事業 15%
		このほかの事業 10%
	主たる事業以外の事業	—%
事業以外（管理部門等）		20%

※1 例：総従事時間数に占める各事業及び事業以外（管理部門等）への従事時間数の割合（表の合計は、100%となる。）

※2 実施している事業の数の関係などで、「主たる事業」の「第2位」、「第3位」、「このほかの事業」欄及び「主たる事業以外の事業」欄に記入する内容がない場合は、「—」を記入

(2) 組織運営について

ア 定款に定める権能に基づき、総会で審議・意思決定が行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イ 【定款で理事会の設置を定めている場合】 定款に定める権能に基づき、理事会で審議・意思決定が行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。また、総会の審議事項との区分は明確か。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ウ 監事による監査は適正に行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 監事はその法人における特別な立場を理解し、第三者性及び公正性が確保されているか（予算・決算書の作成者が、監査まで行っていないか等）。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 監事は法人の理事や職員を兼務していないか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 監事は定款に定める職務を執行しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3) 情報公開について

法人に関する情報を公開しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 活動の状況や法人運営に係る情報をホームページ等の情報開示ツールで発信しているか。また、適時に更新しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 活動の報告等を会報誌等で情報発信しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 法定の閲覧書類（事業報告書等、役員名簿、定款等）はいつでも閲覧することができる状態か。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 事業報告書等の記載内容は、外部に対して理解してもらえるように工夫※して作成されているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※ 例：概要の記載や、写真やデータなどを用いたレイアウト等、読み手に対して内容を分かりやすく伝える工夫

(4) コンプライアンス（法令遵守等）について

コンプライアンス（法令遵守等）の観点から組織として取組を推進しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 事業・活動に関連する法令※を把握し、遵守しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 重要な事項や個人情報を含むデータ・書類等のリスクマネジメントを行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※ 対象となる法令：特定非営利活動促進法、登記に関する法令（組合等登記令）、税に関する法令（法人税法等）、労務に関する法令（労働基準法等）、事業ごとに適用される法令（例：介護保険制度に基づくサービス提供の場合は、介護保険法）など。

(5) 外部評価について

活動内容を評価し、改善する仕組みを有しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① これ以前に外部評価を受けたことがあるか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 外部評価を受けた結果を、理事会等で審議する機会を設ける等、改善する機能を有しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2 法人に対する支援の状況

(1) 寄附について

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 法人の事業活動のため、寄附の募集を行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② より多くの寄附を受けるための工夫を積極的に行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目	法人記入
① 寄附の呼掛け対象	当法人会員、イベント参加者
② 寄附を獲得するための取組・工夫（会報誌や法人ホームページで募集、イベントでの呼掛け等）	会誌に「寄附のお願い」と郵便振込用紙を同封。 ホームページでの募集。 イベント参加者への呼びかけ
③ 評価対象年度における寄附者の人数及び金額	人数： のべ 53 名 金額： 706,000 円
④ 寄附金の増減及びその理由	評価対象年度の前年度から (大幅増・増・ほぼ増減なし・減・○大幅減) <理由>前年は高額寄附があり、寄附総額が多額となっていた。また、高額寄附者であるシニアの会員が減少した。
⑤ 寄附の獲得に取り組むうえでの課題	会員・イベント参加者以外へも寄附依頼を広げる努力。

(2) 寄附以外の支援について

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 寄附以外に、市民、地域団体、行政等から何らかの支援（ボランティア、法人実施事業への協力、補助金・助成金等）を受けているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② ①の支援をより多く受けるための工夫を積極的に行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目	法人記入
① 支援の概要 (ボランティアの場合は従事人数、従事時間数、従事内容など)	(ボランティアの場合 従事人数：のべ 75 名 従事時間数：491 時間 従事内容：天体観望会で受付・引率・説明)
② 寄附以外の支援を獲得するための取組・工夫	京都市市民活動総合センター及び CANPAN 提供の補助金・助成金情報の取得、子どもゆめ基金からの助成金獲得

③ 寄附以外の支援の獲得に取り 組むうえでの課題	京都市や山科区の行政に「地域活性化事業への補助金」 等支給の設置を要望する。 ボランティアの高齢化を緩和するために若い会員を勧 誘する。
-----------------------------	---

3 法人の事業活動に関する所見

※ 活動の意義・成果等、広く社会に対して活動の成果を発信しているか、地域団体等の他団体との連携の状況など。

京都大学大学院理学研究科附属花山天文台の天体観望会などのイベントにボランティアを供給して協力していることと京都大学学生邦楽演奏サークルである「叡風会」と連携して、天体観望会と音楽会を組み合わせるなどの交流を継続して積極的に行なっていることを評価したい。なお、それぞれの行事は天文台と連携して開催されている。

京まなびネット、京都市市民活動総合センター、CANPANのネットイベント情報に活動募集を投稿している。さらに山科区のアプリ「山科プラス+」に観望会・講演会の掲載を依頼し、地元への浸透を図っている。

新聞各紙に依頼してイベントの案内を掲載している。

会誌「あすとろん」を定期的に年4回発行し、法人の活動報告、会員からの投稿などあり、かなり充実していると考え。また、法人ホームページにも会誌のPDF版が掲載され、誰でも閲覧できるようになっているのも良い試みであるが現在2022年3月号までの掲載なので、最新号を掲載するよう努力して欲しい。

4 法人の組織運営に関する所見

※ 財務管理の透明性、組織体制の状況など。

事業報告書・活動計算書・貸借対照表・財産目録がホームページで一般に公開されていて財務管理の透明性が保たれている。

理事会の開催については、2023年度は第58回（4月20日）、第59回（7月3日）、第60回（10月4日）、第61回（11月13日）と4回開催され、それぞれの理事会では議事録が作成されていて、理事会は正常に機能していると考え。

総会の開催については、第16回通常総会が2023年6月4日（日）に開催されている。書面表決者を含む過半数の正会員が出席し、2022年度事業報告・活動計算書、2023年度事業計画と活動予算書及び第9期の役員が可決承認され、議事録が作成されている。通常総会に先だって監事2名が活動計算書及び財産管理について監査を実施した上で、その結果を書面で報告している。

2023年度財務状況では、大きな赤字となっている。原因は会費収入と寄附金収入が減少し、さらに、人件費が増加したことが原因と思われるので、会員を増やすことと寄附金を増やすことの他に支出を抑えるよう努めて欲しい。

5 法人に対する支援に関する所見

※ より多くの寄附や寄附以外の支援を受けるための工夫をしているかなど。

独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金助成金の助成が2件あった。2024年度も子どもゆめ基金助成金からの助成が決定している。

《評価対象法人記入欄》

6 外部評価結果への対応状況

外部評価により提言・指摘等を受けた事項に対する対応状況（今後対応する場合は対応予定）

提言・指摘等を受けた事項	対応状況又は対応予定
<p>会誌の PDF 版が HP に掲載されているが現在 2022 年 3 月号までの掲載なので、最新号を掲載するよう努力して欲しい。</p>	<p>会誌発行後、早期に HP で公開できるよう努力していきたいと考えている。</p>
<p>2023 年度財務状況では、大きな赤字となっている。原因は会費収入と寄附金収入が減少し、さらに人件費が増加したことが原因と思われるので、会員を増やすことと寄附金を増やすことの他に支出を抑えるよう努めて欲しい。</p>	<p>過年度会費未納入者への会費請求を行っているところである。イベントの定員をコロナ以前に近い数に戻すことで新たな会員の勧誘を行っている。寄附についても会員とイベント参加者に呼びかける一方、総会案内郵送費の削減のため、電磁的方法で招集できるよう定款を変更するなど支出を減らす努力を行っている。</p>

備考（審査委員会のコメント）

会員の維持拡大が、継続的な課題である。前回の審査委員会のコメントでも提言したとおり、会員を継続する動機を分析して、会員増加に繋げていただきたい。

また、事業に参加しなくなった会員であっても、次世代に事業を継続させるために応援したいというケースが想定されるため、応援会員制度など新たな会員制度についてもご検討いただきたい。

特定非営利活動に関する外部評価の評価項目について

評価対象法人	特定非営利活動法人フォーラムひこばえ
評価実施年月日	2024年06月24日
評価者氏名(職名)	浜岡 政好氏 (佛教大学名誉教授)
評価対象年度(期間)	2023(令和5)年度(2023年4月1日～2024年3月31日)

1 法人の事業活動、組織運営等に関する状況

(1) 事業活動について

ア 事業計画等を策定しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 各事業年度の事業計画は、組織的な合意形成(総会・理事会等)に沿って策定しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 法人の目的を達成するための中長期的計画を策定しているか。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

*理事長が研修により策定したが、職員間共有ができていない

イ 法人の目的を達成するための事業を主たる事業として実施しているか。

法人自己評価		外部評価	
はい	いいえ	はい	いいえ
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

→ 法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目			法人全体の労力のうち 各項目が占める割合 (※1)
事業 (※2)	主たる事業	第1位：ひこばえ事業・ひこばえ YOU (よう)	20%
		第2位：児童館事業	20%
		第3位：放課後等デイサービス事業	20%
		第4位：就労継続B・生活介護事業	20%
	主たる事業以外の事業		0%
事業以外(管理部門等)			20%

※1 例：総従事時間数に占める各事業及び事業以外(管理部門等)への従事時間数の割合(表の合計は、100%となる。)

※2 実施している事業の数の関係などで、「主たる事業」の「第2位」、「第3位」、「このほかの事業」欄及び「主たる事業以外の事業」欄に記入する内容がない場合は、「-」を記入

(2) 組織運営について

ア 定款に定める権能に基づき、総会で審議・意思決定が行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イ 【定款で理事会の設置を定めている場合】 定款に定める権能に基づき、理事会で審議・意思決定が行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。また、総会の審議事項との区分は明確か。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ウ 監事による監査は適正に行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 監事はその法人における特別な立場を理解し、第三者性及び公正性が確保されているか（予算・決算書の作成者が、監査まで行っていないか等）。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 監事は法人の理事や職員を兼務していないか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 監事は定款に定める職務を執行しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3) 情報公開について

法人に関する情報を公開しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 活動の状況や法人運営に係る情報をホームページ等の情報開示ツールで発信しているか。また、適時に更新しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 活動の報告等を会報誌等で情報発信しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 法定の閲覧書類（事業報告書等、役員名簿、定款等）はいつでも閲覧することができる状態か。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 事業報告書等の記載内容は、※外部に対して理解してもらえるように工夫して作成されているか。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

※ 例：概要の記載や、写真やデータなどを用いたレイアウト等、読み手に対して内容を分かりやすく伝える工夫

(4) コンプライアンス（法令遵守等）について

コンプライアンス（法令遵守等）の観点から組織として取組を推進しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 事業・活動に関連する法令※を把握し、遵守しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 重要な事項や個人情報を含むデータ・書類等のリスクマネジメントを行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※ 対象となる法令：特定非営利活動促進法、登記に関する法令（組合等登記令）、税に関する法令（法人税法等）、労務に関する法令（労働基準法等）、事業ごとに適用される法令（例：介護保険制度に基づくサービス提供の場合は、介護保険法）など。

(5) 外部評価について

活動内容を評価し、改善する仕組みを有しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① これ以前に外部評価を受けたことがあるか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 外部評価を受けた結果を、理事会等で審議する機会を設ける等、改善する機能を有しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2 法人に対する支援の状況

(1) 寄附について

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 法人の事業活動のため、寄附の募集を行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② より多くの寄附を受けるための工夫を積極的に行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目	法人記入
① 寄附の呼掛け対象	会員・利用者
② 寄附を獲得するための取組・工夫（会報誌や法人ホームページで募集、イベントでの呼掛け等）	ホームページやイベントでの呼びかけ one coin キャンペーンの実施（寄付封筒によるアナログな寄付集め）
③ 評価対象年度における寄附者の人数及び金額	人数：集計中 35人 金額：866,602円 (2022年度 1,223,212円)
④ 寄附金の増減及びその理由	評価対象年度の前年度から (大幅増・増・ほぼ増減なし・減・大幅減) <理由> ひこばえ応援者の高齢化 若い世代への寄付呼びかけ方法の検討が必要
⑤ 寄附の獲得に取り組むうえでの課題	制度に基づく事業と基づかない事業の区切りが利用者には見え辛いので、なぜ自主事業に寄付が必要なのかを理解してもらえるよう工夫する

(2) 寄附以外の支援について

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 寄附以外に、市民、地域団体、行政等から何らかの支援（ボランティア、法人実施事業への協力、補助金・助成金等）を受けているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② ①の支援をより多く受けるための工夫を積極的に行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目	法人記入
① 支援の概要 (ボランティアの場合は従事人数、従事時間数、従事内容など)	日本財団子ども第三の居場所事業助成金（最終年） (ボランティアの場合 従事人数：598人 従事時間数：1462時間 従事内容：学習ボランティア・食堂調理ボランティア・文庫ボランティア・卓球・絵画ボランティア・サークル講師など)

② 寄附以外の支援を獲得するための取組・工夫	HP での呼びかけ サークルのメンバーや会員の方への活動呼びかけ
③ 寄附以外の支援の獲得に取り組むうえでの課題	当法人の活動趣旨にもあるように、ボランティアは安上がり労働力ではなく、住民参加の一つのかたちと捉えている。そのことを職員が理解し、適切にコーディネートしていけるよう、研修を受けたり、仕組みを創っていったりすることが課題である。

3 法人の事業活動に関する所見

※ 活動の意義・成果等、広く社会に対して活動の成果を発信しているか、地域団体等の他団体との連携の状況など。

<p>(1) 活動の意義・成果等 2023年度は、コロナ禍が収束し、また施設建設も終わり、事業活動が通常の形に戻ってきた。法人の事業活動が地域の居場所機能を取り戻して役割を発揮した一年であった。自主事業等に課題を抱えてはいるが事業収支差額は前年度より減らしながらも黒字を維持している。赤ちゃんからお年寄りまでの居場所づくりを追求してきているが、自主事業等における高齢者の居場所づくりに課題を残しており、今後のカフェ改修等で改善されることを期待している。学習支援や食堂事業を通じて、ふらっと遊びに来る子どもが増え、またそれらの子どもたちを支援する学生ボランティアや高齢者も増え、多世代交流が生まれてきている。こうした全世代型の居場所づくりがさらに進むことを期待する。</p> <p>(2) 社会に対しての活動成果の発信 活動成果の発信等については、前年同様に、ホームページでの発信に加えて、機関紙「フォーラムひこばえ」や月刊の「うたの・ひこばえじどうかん」報などによって定期的に発信されている。事業や活動の規模が大きくなる中で、また事業開始以来20年近く経ち、地域社会の重要な社会インフラとして認知され始めている状況の中で、社会に向けての法人情報の公開・発信はいよいよ重要になっている。ホームページの充実や機関紙「フォーラムひこばえ」の発行頻度の拡充などを含む広報体制の強化が課題になっている。</p> <p>(3) 地域団体等の他団体との連携 コロナ禍の収束によって地域諸団体との連携行事が徐々に従来の形で再開され、少年補導宇多野支部との共催での「うたのわいわいひろば」の開催、また体育振興会主催の宇多野フェスタなどに参加した。さらに「ひこばえまつり」を開催し、学童保護者会や「ひこばえ建設委員会・ひこばえ YELL などと共同して活動した。これらの活動を通して多世代の人たちの地域での参加が広がるとともに、法人の事業や活動が地域の人びととの共同の地域づくりであることへの理解が少しずつではあるが、着実に広がってきている。</p>

4 法人の組織運営に関する所見

※ 財務管理の透明性、組織体制の状況など。

(1) 財産管理の透明性

2024年度会員総会において事業報告及び決算書、事業計画及び予算、監事監査報告書が審議、議決されており、財務管理の透明性は確保されている。

(2) 組織体制について

①総会・理事会

定款に基づき総会、理事会が運営され、それぞれの機関で適切に審議、意思決定がなされている。議事録も適切に作成され、保管されている。

②監事・監査

監事は第三者性、公正性を確保しており、定款に定める職務を遂行している。

③事務局体制等

事務局に2022年度から経理専門職員が配置され、さらに2023年度末から庶務・総務・労務担当職員が配置され、法人本部機能が少しずつ整備されてきたことは前進である。前年も指摘したが、法人は拠点施設がほぼ整い、長期の事業展開の土台ができてきたなかで中長期計画を策定し、その下で単年度計画を推進するという事業経営のあり方を確立する時期に来ている。この間、中長期計画策定の努力はなされ、理事長による「経営指針書」という形で中長期計画の素案づくりは行われたが、法人として理事会で協議決定した中長期計画とはなっていない。中長期計画の策定は特定の部署や個人に任せるのではなく、職員集団の参加を伴いつつ具体化していき、それを理事会や総会でオーソライズすることが必要である。そのためには昨年度も指摘したがいくつかの課題がある。1つは理事会における中長期計画策定についての合意形成であり、2つは職員研修における法人ミッションの再確認であり、それに基づいた職員集団での中長期計画の素案づくりの推進である。3つはそのためには事務局機能のさらなる強化が必要となる。このように中長期計画の策定も法人ミッションの共有も事業拡大のなかで、増大する職員が一つにまとまるために欠かせない課題である。さらに中長期計画の検討を通じて法人形態のあり方も課題となってくる。

④職員体制

事業規模が拡大する中で職員体制の量的・質的強化が求められている。職員が集団のなかで力を発揮できるように、職務分掌の明文化と浸透が課題となっている。また法人も開設から20年近く経過するなかで、世代継承を意識した管理職層の形成が課題となっている。そのためにも職員の採用、育成等を担う人事・研修委員会のような人材育成の仕組みとともに体系的な育成プログラムづくりを急ぐ必要がある。

⑤危機管理体制

コロナ禍だけではなく他の感染症や自然災害による事業休止のリスクは高まっている。BCPを整備するとともに、検証作業を進める必要がある。

5 法人に対する支援に関する所見

※ より多くの寄附や寄附以外の支援を受けるための工夫をしているかなど。

この間、施設整備に当たって多くの人びとに寄附を呼びかけ、多くの寄付や支援者を得てきた。それは一過性の施設整備という分かりやすい目標に対する寄付や支援であったが、今年度からは日常的な事業や活動に対する恒常的な寄付や支援を呼びかけるものとなった。その結果、今年度の寄付額は昨年度から減額している。高額の施設建設が終わったことや支援者の高齢化などが影響していると思われるが、法人の日常的な事業や活動に対する恒常的な寄付や支援を広げていくためには、今まで以上に法人のミッションを見える形で発信し、利用者や地域社会での共感を広げていく必要がある。特に自主事業は法人のミッションの見せ場でもあり、利用者や地域住民とともに事業や活動の中味をつくり、財政的にも安定させることは、法人の今後に向けての試金石ともいえる課題である。またこの間指摘しているように、寄付金や支援者を増やす活動は、事業や活動の資金や人手が足りないから行われるという性質のものではなく、地域における福祉活動の担い手を広げていくという法人のミッションの実現に関わる重要な課題である。こうした取り組みのもつ重要性を職員集団だけでなく、会員、利用者等のなかで共有できるようにして欲しい。

《評価対象法人記入欄》

6 外部評価結果への対応状況

外部評価により提言・指摘等を受けた事項に対する対応状況（今後対応する場合は対応予定）

提言・指摘等を受けた事項	対応状況又は対応予定
<p>赤ちゃんからお年寄りまでの居場所づくりを追求してきているが、自主事業等における高齢者の居場所づくりに課題を残しており、今後のカフェ改修等で改善されることを期待している。学習支援や食堂事業を通じて、ふらっと遊びに来る子どもが増え、またそれらの子どもたちを支援する学生ボランティアや高齢者も増え、多世代交流が生まれてきている。こうした全世代型の居場所づくりがさらに進むことを期待する。</p>	<p>◎カフェ改修後、高齢者や多世代交流を目的とした会食の会を復活させる（地域食堂の拡大継続） ◎カフェ改修後、地域の居場所としての機能を果たす工夫を考え、就労支援事業所と連携をとりながら、ひこばえの玄関、応接間としての役割を果たす。 *まかない食堂やワンドリンク長居カフェコーナー *カフェ貸し切りでの講演会や音楽会などの催し *多様性のあるカフェスタッフ集団</p> <p>コロナの流行やコミュニティー館の改修工事など要因はあったにせよ、開設以来行ってきた会食の会を中断したことは、大変心残りである。カフェの完成を機会に、多世代が集いやすい仕組みを考え、ひこばえの原点となる実践に取り組んでいきたい。</p>
<p>事業開始以来20年近く経ち、地域社会の重要な社会インフラとして認知され始めている状況の中で、社会に向けての法人情報の公開・発信はいよいよ重要になっている。ホームページの充実や機関紙「フォーラムひこばえ」の発行頻度の拡充などを含む広報体制の強化が課題になっている。</p>	<p>◎誰に向けて、何を、どのように発信していくのかを職員間でしっかりと共有し、広報に取り組む ◎サークルだより・ごきげんいかがはがきの発行 「地域社会の重要な社会インフラ」の役割を果たすため、生活圏域をベースとしたアナログな広報も大切にしたい。特に高齢の、独居や孤立している方を見守るため、サークルだよりを発行し、暮らしのお役立ち情報を発信する。またサークルを休まれた方には電話やはがきで丁寧な対応をしていきたい。</p>
<p>法人は拠点施設がほぼ整い、長期の事業展開の土台ができてきたなかで中長期計画を策定し、その下で単年度計画を推進するという事業経営のあり方を確立する時期に来ている。この間、中長期計画策定の努力はなされ、理事長による「経営指針書」という形で中長期計画の素案づくりは行われたが、法人として理事会で協議決定した中長期計画とはなっていない。中長期計画の策定は特定の部署や個人に任せるのではなく、職員集団の参加を伴いつつ具体化していき、それを理事会や総会でオーソライズすることが必要である。そのためはいくつかの課題がある。1つは理事会における中長期計画策定についての合意形成であり、2つは職員研修における法人ミッションの再確認であり、それに基づいた職員集団での中長期計画の素案づくりの推進である。3つはそのためには事務局機能のさらなる強化が必要となる。このように中長期計画の策定も法人ミッションの共有も事業拡大のなかで、増大する職員が一つにまとまるために欠かせない課題である。さらに中長期計画の検討を通じて法人形態のあり方も課題となってくる。</p>	<p>「1つは理事会における中長期計画策定についての合意形成であり、2つは職員研修における法人ミッションの再確認であり、それに基づいた職員集団での中長期計画の素案づくりの推進である。3つはそのためには事務局機能のさらなる強化が必要となる。」 →①2の職員研修におけるミッションの再確認→カフェを改修することにより、地域の居場所をどのように作り、経営的にも安定させるのかを考えるプロジェクトを立ち上げる ② 中長期計画を策定し役員会でも共有する ③ 事務局長と理事長の人格を分け、今後4～5年で大きく変わると思われる事務局の組織計画をたてる。法人における事務局の役割も明確にする</p> <p>「中長期計画の策定も法人ミッションの共有も事業拡大のなかで、増大する職員が一つにまとまるために欠かせない課題である。さらに中長期計画の検討を通じて法人形態のあり方も課題となってくる。」 →中長期計画策定の中で将来の法人形態のことも視野に入れて計画していく</p> <p>「職員体制の量的・質的強化が求められている。職員が集団のなかで力を発揮できるように、職務分掌の明文化と浸透が課題」 →2024年7月、コンサルを導入し、職務分掌を作成す</p>

<p>事業規模が拡大する中で職員体制の量的・質的強化が求められている。職員が集団のなかで力を発揮できるように、職務分掌の明文化と浸透が課題となっている。また法人も開設から20年近く経過するなかで、世代継承を意識した管理職層の形成が課題となっている。そのためにも職員の採用、育成等を担う人事・研修委員会のような人材育成の仕組みとともに体系的な育成プログラムづくりを急ぐ必要がある。</p>	<p>ることができた。今後これを年3回見直し、職員間に浸透させていきたい。また分掌を見直す中で、法人ミッションの研修や体験を繰り返し行っていきたい。</p> <p>「採用、育成等を担う人事・研修委員会のような人材育成の仕組みとともに体系的な育成プログラムづくりを急ぐ必要がある。」 →福祉分野は特に、全国的な人材不足となりつつある。若者が働きたいと思う魅力ある法人づくりを研究し、実践していきたい。また多様な人や世代が働くことができる給与体系を創っていく。(2024年度後期)</p>
<p>BCPを整備するとともに、検証作業を進める必要がある。</p>	<p>◎運営委員会（管理者）において2023年度に策定した各事業所のBCPを基に法人全体のものを作成し体系化していく</p>
<p>今年度からは日常的な事業や活動に対する恒常的な寄付や支援を呼びかけるものとなった。その結果、今年度の寄付額は昨年度から減額している。高額な施設建設が終わったことや支援者の高齢化などが影響していると思われるが、法人の日常的な事業や活動に対する恒常的な寄付や支援を広げていくためには、今まで以上に法人のミッションを見える形で発信し、利用者や地域社会での共感を広げていく必要がある。</p>	<p>◎寄付が何に使われ、どうなっていくかをわかりやすく発信する（パンフレットの作成など） ◎ほかの認定NPOなどの発信の仕方を研究する</p>
<p>自主事業は法人のミッションの見せ場でもあり、利用者や地域住民とともに事業や活動の中味をつくり、財政的にも安定させることは、法人の今後に向けての試金石ともいえる課題である。またこの間指摘しているように、寄付金や支援者を増やす活動は、事業や活動の資金や人手が足りないから行われるという性質のものではなく、地域における福祉活動の担い手を広げていくという法人のミッションの実現に関わる重要な課題である。こうした取り組みのもつ重要性を職員集団だけでなく、会員、利用者等のなかで共有できるようにして欲しい。</p>	<p>◎カフェ拡大改修と同時に、法人のミッションをより強く体現する居場所づくりについて再構築する。特に地域の高齢者の見守りや生きがい対策などは、自主事業で対応していく。 ◎自主事業を経営的にも独立したものにできるよう、収支計画や職員体制を立案する</p>

発足から20年近くが経過し、中心的担い手も世代交代期に入り、事業継承を考えれば、そのための取り組みを意識的に追求するステージに来ていると思われる。次期事務局長を育てることが当面の課題でしょうか。でも課題を抱えながらも地域における重要な生活インフラとしての承認を得てきていますね。これからもおおいに期待しています。

(浜岡氏のメールより)

備考（審査委員会のコメント）

<p>中長期計画を職員で練り上げて作っていかうという実質的なプロセスを示されていることは評価できる。</p> <p>赤ちゃんからお年寄りまでのあらゆる世代の居場所として、地域で重要な機能を担っており、すばらしい活動をされているので、これからも地域のハブ的な施設として、事業を継続していただきたい。</p>
--

特定非営利活動に関する外部評価の評価項目について

評価対象法人	特定非営利活動法人 FaSoLabo 京都
評価実施年月日	令和6年6月20日
評価者氏名（職名）	杉岡 秀紀（福知山公立大学地域経営学部准教授）
評価対象年度（期間）	令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

1 法人の事業活動、組織運営等に関する状況

(1) 事業活動について

ア 事業計画等を策定しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 各事業年度の事業計画は、組織的な合意形成（総会・理事会等）に沿って策定しているか。	■	□	■	□
② 法人の目的を達成するための中長期的計画を策定しているか。	■	□	■	□

イ 法人の目的を達成するための事業を主たる事業として実施しているか。

法人自己評価		外部評価	
はい	いいえ	はい	いいえ
■	□	■	□

→ 法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目		法人全体の労力のうち 各項目が占める割合 (※1)
事業 (※2)	主たる事業	第1位：食物アレルギーサポートデスク 30%
		第2位：地域子育て支援拠点事業 25%
		第3位：食物アレルギーの若者支援研究 20%
		このほかの事業 10%
	主たる事業以外の事業	0%
事業以外（管理部門等）		15%

※1 例：総従事時間数に占める各事業及び事業以外（管理部門等）への従事時間数の割合（表の合計は、100%となる。）

※2 実施している事業の数の関係などで、「主たる事業」の「第2位」、「第3位」、「このほかの事業」欄及び「主たる事業以外の事業」欄に記入する内容がない場合は、「-」を記入

(2) 組織運営について

ア 定款に定める権能に基づき、総会で審議・意思決定が行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	■	□	■	□
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。	■	□	■	□
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	■	□	■	□

イ 【定款で理事会の設置を定めている場合】 定款に定める権能に基づき、理事会で審議・意思決定が行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	■	□	■	□
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。また、総会の審議事項との区分は明確か。	■	□	■	□
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	■	□	■	□

ウ 監事による監査は適正に行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 監事はその法人における特別な立場を理解し、第三者性及び公正性が確保されているか（予算・決算書の作成者が、監査まで行っていないか等）。	■	□	■	□
② 監事は法人の理事や職員を兼務していないか。	■	□	■	□
③ 監事は定款に定める職務を執行しているか。	■	□	■	□

(3) 情報公開について

法人に関する情報を公開しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 活動の状況や法人運営に係る情報をホームページ等の情報開示ツールで発信しているか。また、適時に更新しているか。	■	□	■	□
② 活動の報告等を会報誌等で情報発信しているか。	■	□	■	□
③ 法定の閲覧書類（事業報告書等、役員名簿、定款等）はいつでも閲覧することができる状態か。	■	□	■	□
④ 事業報告書等の記載内容は、外部に対して理解してもらえるように工夫※して作成されているか。	■	□	■	□

※ 例：概要の記載や、写真やデータなどを用いたレイアウト等、読み手に対して内容を分かりやすく伝える工夫

(4) コンプライアンス（法令遵守等）について

コンプライアンス（法令遵守等）の観点から組織として取組を推進しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 事業・活動に関連する法令※を把握し、遵守しているか。	■	□	■	□
② 重要な事項や個人情報を含むデータ・書類等のリスクマネジメントを行っているか。	■	□	■	□

※ 対象となる法令：特定非営利活動促進法、登記に関する法令（組合等登記令）、税に関する法令（法人税法等）、労務に関する法令（労働基準法等）、事業ごとに適用される法令（例：介護保険制度に基づくサービス提供の場合は、介護保険法）など。

(5) 外部評価について

活動内容を評価し、改善する仕組みを有しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① これ以前に外部評価を受けたことがあるか。	■	□	■	□
② 外部評価を受けた結果を、理事会等で審議する機会を設ける等、改善する機能を有しているか。	■	□	■	□

2 法人に対する支援の状況

(1) 寄附について

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 法人の事業活動のため、寄附の募集を行っているか。	■	□	■	□
② より多くの寄附を受けるための工夫を積極的に行っているか。	■	□	■	□

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目	法人記入
① 寄附の呼掛け対象	食物アレルギー支援を行う企業、食物アレルギーに関心がある人、当法人のイベントに参加した人など
② 寄附を獲得するための取組 ・工夫（会報誌や法人ホームページで募集、イベントでの呼掛け等）	寄付サイト（コングラント）、イオンレシートキャンペーンへの登録、H20 サンタ NPO フェスティバルへの出展の他、ホームページ・ニューズレター、イベントでの呼びかけ。地域のお祭りで啓発活動による募金活動など
③ 評価対象年度における寄附者の人数及び金額	人数：延べ84名、11社、1団体 金額：363,668円
④ 寄附金の増減及びその理由	評価対象年度の前年度から (大幅増・増・ほぼ増減なし・ 減 ・大幅減) <理由>2022年度は、企業（ロート製薬）から臨時的な高額寄付があり大幅増となっていた。2023年度は事業型寄付の設置や当法人初となる医療系の学会に出展し、新たな分野（医療従事者）からの個人寄付を目指した。その結果、金額は少ないながらも個人からの寄付件数が増加した（2022年度19件、2023年度25件）
⑤ 寄附の獲得に取り組むうえでの課題	2023年度より、事業選択型寄付の設置を行った。団体への寄付と併せて認知を広めていく必要がある。

(2) 寄附以外の支援について

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 寄附以外に、市民、地域団体、行政等から何らかの支援（ボランティア、法人実施事業への協力、補助金・助成金等）を受けているか。	■	□	■	□
② ①の支援をより多く受けるための工夫を積極的に行っているか。	■	□	■	□

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目	法人記入
① 支援の概要 (ボランティアの場合は従事人数、従事時間数、従事内容など)	【補助金・助成金】 2022年度第二期ニッポンハム食の未来財団（団体活動支援助成）、令和4年度中京区共同募金公募型助成、阪急阪神 未来のゆめまちプロジェクト、ファイザープログラム「心とからだのヘルスケアに関する市民活動・

	市民研究支援」による助成 【ボランティアの状況】 (ボランティアの場合 従事人数：29名 従事時間数：約 504 時間 従事内容：ニュースレターの原稿作成・発送作業、サポートデスクイベント準備・当日運営補助、つどいの広場絵本読み聞かせ、つどいの広場事務作業、大学生インターンの受け入れ) 【企業・個人による食物アレルギー配慮商品の提供】 10社、2団体、3名 315,897円
② 寄附以外の支援を獲得するための取組・工夫	インターン大学生の受け入れによる活動の周知イベントに参加された方に声掛けし、ボランティアとして受け入れている 地域の子育てサークル・ボランティア団体との連携
③ 寄附以外の支援の獲得に取り組むうえでの課題	京都市外の団体との連携 職員のマンパワー不足

3 法人の事業活動に関する所見

※ 活動の意義・成果等、広く社会に対して活動の成果を発信しているか、地域団体等の他団体との連携の状況など。

FaSoLabo 京都は、2005年の任意団体設立以降、約20年に渡り、食物アレルギーの子供とその家族のQOLの向上およびその社会的理解を広げるべく、事業活動を行っている。

とりわけ令和5年度については、「社会的理解」の取組みでは、主たる財源となっている受託事業「つどいの広場」の継続な運用(668組、延べ1498人の利用)はもとより、「どれみ隊プロジェクト」が本格化し、子どもたちが主体となる活動を確認できた。子どもたちによる学会発表も素晴らしい受発信の機会になっているものと推察される。

また、「支援者支援」の取組みでは、食物アレルギーを生活モデル(福祉)で考える場「食物アレルギー相談援助研究会」が継続できているほか、ファイザー株式会社助成による調査研究が着実に進んでいることを確認した。

加えて、「当事者支援」の取組みでは、ニュースレターの発行(年3回)、ホームページの自前化(外注の中止)により広く社会に対して活動を発信するとともに、ティーンミート、保護者交流会の継続開催により食物アレルギーを持つ若い世代同士が意見交換する場を創造できている。

4 法人の組織運営に関する所見

※ 財務管理の透明性、組織体制の状況など。

(1) 収益構造の改善について
財務管理の透明性については、2023年度は87,182円の当期正味財産を残せたことを評価したい。例えばHPの内部化も経費削減に一役買ったであろうことが窺える。一方、次期繰越正味財産額は△1,242,527円あり、決して楽観できる状態にあるわけではない。この額をさらに減らせるよう引き続きの創意工夫を期待したい。

(2) 新たな理事構成の準備について
組織体制の状況については、新体制4年目となり、かなり安定してきている。加えて、理事構成についても4名の方にまずはオブザーバーやアドバイザーボードとして関わってもらい、緩やかに関わってもらう方針を確認した。監事から指摘もあるように今後はオブザーバーやアドバイザーボードの規定(内規)の整備が求められる。

5 法人に対する支援に関する所見

※ より多くの寄附や寄附以外の支援を受けるための工夫をしているかなど。

(1) 安定的な助成金の獲得について

2022年度は300万を超えていた助成金が、2023年度は約240万と減額になっている。業務委託料は例年700万程度であり、2024年度は家賃補助があり、多少増額は見込まれるものの、大幅な増額でないことを考えると、助成金や寄付収入、あるいは事業収入を増やすことが重要である。引き続き安定財源を獲得できるよう、引き続きの努力を期待したい。助成金獲得のためにプロボノを活用するのも一案である。

(2) 寄付金の獲得のための仕組みづくりについて

2022年度19件、2023年度25件と、金額は少額ながらも個人からの寄付件数が増加していることは評価したい。2023年度より、事業選択型寄付の設置を行っているとのことなので、認知を広めていく活動を期待したい。

《評価対象法人記入欄》

6 外部評価結果への対応状況

外部評価により提言・指摘等を受けた事項に対する対応状況（今後対応する場合は対応予定）

提言・指摘等を受けた事項	対応状況又は対応予定
<p>財務管理の透明性については、2023年度は87,182円の当期正味財産を残せたことを評価したい。例えばHPの内部化も経費削減に一役買ったであろうことが窺える。一方、次期繰越正味財産額は△1,242,527円あり、決して楽観できる状態にあるわけではない。この額をさらに減らせるよう引き続きの創意工夫を期待したい。</p>	<p>近年、学生や子育て支援に関心が高い市民からのボランティア希望者が急増している。これまでは、イベント当日だけのボランティアを募集していたが、イベントの企画・準備段階からボランティアの方と活動を行うことで、効率的にイベントの企画運営と、人件費の削減を目指す。</p>
<p>組織体制の状況については、新体制4年目となり、かなり安定してきている。加えて、理事構成についても4名の方にまずはオブザーバーやアドバイザーボードとして関わってもらい、緩やかに関わってもらう方針を確認した。監事から指摘もあるように今後はオブザーバーやアドバイザーボードの規定（内規）の整備が求められる。</p>	<p>現在、オブザーバー、アドバイザーボードについては定款を含めて規定を設けていない。今後、理事会で定款変更の必要性についての検討と、規定の整備を進めていく。</p>
<p>2022年度は300万を超えていた助成金が、2023年度は約240万と減額になっている。業務委託料は例年700万程度であり、2024年度は家賃補助があり、多少増額は見込まれるものの、大幅な増額でないことを考えると、助成金や寄付収入、あるいは事業収入を増やすことが重要である。引き続き安定財源を獲得できるよう、引き続きの努力を期待したい。助成金獲得のためにプロボノを活用するのも一案である。</p>	<p>事業を実施するにあたって、助成金に頼らない規模や計画・準備段階から参加者を巻き込んで実施する形でも検討していきたいと考えている。事業規模に応じて、助成金申請が必要な場合は、サポートスタッフのフォローを受けながら申請を行っていく。</p>

<p>寄付金の獲得のための仕組みづくりに ついては、2022年度19件、2023年度25 件と、金額は少額ながらも個人からの寄 付件数が増加していることは評価した い。2023年度より、事業選択型寄付の設 置を行っているとのことなので、認知を 広めていく活動を期待したい。</p>	<p>日頃のサポートデスク、つどいの広場での寄付の呼 びかけに加えて、(一社) H20 サンタチャリティートー クの参加や、医療系の学会でのブース出展時の機会 に確実に寄付を呼び掛けていく。</p>
--	---

備考（審査委員会のコメント）

<p>医療系学会への出展や事業選択型寄附システムの設置など、新たなチャレンジをされている ことが評価できる。アレルギーの事業ということで、寄附の呼び掛けや事業の実施にあたって は、どうしても限られた部分があるかと思うが、企業と連携を取るなどして、これからも事業 を進めていただきたい。</p>
--

特定非営利活動に関する外部評価の評価項目について

評価対象法人	特定非営利活動法人京都 DARC
評価実施年月日	2024年7月4日
評価者氏名(職名)	松田 美枝(京都文教大学臨床心理学部臨床心理学科准教授)
評価対象年度(期間)	2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)

1 法人の事業活動、組織運営等に関する状況

(1) 事業活動について

ア 事業計画等を策定しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 各事業年度の事業計画は、組織的な合意形成(総会・理事会等)に沿って策定しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 法人の目的を達成するための中長期的計画を策定しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イ 法人の目的を達成するための事業を主たる事業として実施しているか。

法人自己評価		外部評価	
はい	いいえ	はい	いいえ
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

→ 法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目		法人全体の労力のうち 各項目が占める割合 (※1)
事業 (※2)	主たる事業	第1位：自立(生活)訓練事業 40%
		第2位：共同生活援助事業 35%
		第3位：講演事業 10%
		このほかの事業 5%
	主たる事業以外の事業	5%
事業以外(管理部門等)		5%

※1 例：総従事時間数に占める各事業及び事業以外(管理部門等)への従事時間数の割合(表の合計は、100%となる。)

※2 実施している事業の数の関係などで、「主たる事業」の「第2位」、「第3位」、「このほかの事業」欄及び「主たる事業以外の事業」欄に記入する内容がない場合は、「-」を記入

(2) 組織運営について

ア 定款に定める権能に基づき、総会で審議・意思決定が行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イ 【定款で理事会の設置を定めている場合】 定款に定める権能に基づき、理事会で審議・意思決定が行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。また、総会の審議事項との区分は明確か。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ウ 監事による監査は適正に行われているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 監事はその法人における特別な立場を理解し、第三者性及び公正性が確保されているか（予算・決算書の作成者が、監査まで行っていないか等）。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 監事は法人の理事や職員を兼務していないか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 監事は定款に定める職務を執行しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3) 情報公開について

法人に関する情報を公開しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 活動の状況や法人運営に係る情報をホームページ等の情報開示ツールで発信しているか。また、適時に更新しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 活動の報告等を会報誌等で情報発信しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 法定の閲覧書類（事業報告書等、役員名簿、定款等）はいつでも閲覧することができる状態か。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 事業報告書等の記載内容は、外部に対して理解してもらえるように工夫※して作成されているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※ 例：概要の記載や、写真やデータなどを用いたレイアウト等、読み手に対して内容を分かりやすく伝える工夫

(4) コンプライアンス（法令遵守等）について

コンプライアンス（法令遵守等）の観点から組織として取組を推進しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 事業・活動に関連する法令※を把握し、遵守しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 重要な事項や個人情報を含むデータ・書類等のリスクマネジメントを行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※ 対象となる法令：特定非営利活動促進法、登記に関する法令（組合等登記令）、税に関する法令（法人税法等）、労務に関する法令（労働基準法等）、事業ごとに適用される法令（例：介護保険制度に基づくサービス提供の場合は、介護保険法）など。

(5) 外部評価について

活動内容を評価し、改善する仕組みを有しているか。

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① これ以前に外部評価を受けたことがあるか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 外部評価を受けた結果を、理事会等で審議する機会を設ける等、改善する機能を有しているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2 法人に対する支援の状況

(1) 寄附について

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 法人の事業活動のため、寄附の募集を行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② より多くの寄附を受けるための工夫を積極的に行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目	法人記入
① 寄附の呼掛け対象	当事者家族、障がい者支援員、弁護士、市民等
② 寄附を獲得するための取組 ・工夫（会報誌や法人ホームページで募集、イベントでの呼掛け等）	年に6回のニュースレター発行。 ボランティアへの参加。 フォーラムや学校講演等の啓発活動の取り組み。 インターネット寄付の導入。
③ 評価対象年度における寄附者の人数及び金額	人数：79名 金額：¥1,905,383
④ 寄附金の増減及びその理由	評価対象年度の前年度から (大幅増・増・ほぼ増減なし・ 減 ・大幅減) <理由> グループホーム建設反対運動という話題性がある事象が起きたことから、その年を起点として寄付者が増加していた。そこから、数年経過し、話題性のある活動が出来ていない点が理由として挙げられる。 また、第三種郵便にてニュースレターを送付する際、同封している寄附金振込書の「寄附金」の項目を削除するように指導を受けた。（「賛助会員」はOK） それにより、寄付の納入方法が不明瞭となったことで、寄附者が減少した可能性がある。
⑤ 寄附の獲得に取り組むうえでの課題	新たな事業についての検討。Facebook等で、寄付金納入方法のアナウンス。啓発活動にて、継続的な寄付の呼びかけ。

(2) 寄附以外の支援について

項目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 寄附以外に、市民、地域団体、行政等から何らかの支援（ボランティア、法人実施事業への協力、補助金・助成金等）を受けているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② ①の支援をより多く受けるための工夫を積極的に行っているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項目	法人記入
① 支援の概要 (ボランティアの場合は従事人数、従事時間数、従事内容など)	(ボランティアの場合 従事人数：4名 従事時間数：30 時間 従事内容：イベントでの飲食販売におけるお手伝い)
② 寄附以外の支援を獲得するための取組・工夫	SNS を用いた情報発信。ニュースレターでの活動報告。社会貢献活動への積極的な参加。
③ 寄附以外の支援の獲得に取り組むうえでの課題	薬物依存症に対する社会的偏見をなくすこと。薬物依存症への誤解を緩和させる活動を検討し続けること。

3 法人の事業活動に関する所見

※ 活動の意義・成果等、広く社会に対して活動の成果を発信しているか、地域団体等の他団体との連携の状況など。

薬物依存からの回復施設として、長年にわたり社会に貢献してきている京都 DARC であるが、最近では 30 代などの若者が大麻や処方薬依存で利用することが増えて来ており、本人が自発的に相談してくる割合が、家族や専門職などよりも多く、社会における認知度が向上していると同時に、時代に即した社会的役割を果たしているといえる。

そのような背景がある中で、中学校に出向いての出前講座や、大学生との交流（アクセサリ一作りやお祭りへの出店等）が活性化しており、また大学院生をボランティアとして受け入れるなど、双方向の関わりが増加していることは、地域に根差した連携であるといえる。

今後、若者の薬物問題はさらに増加するものと考えられ、また、ギャンブル依存等の行動嗜癖についても受け入れを検討しているとのことであり、時代にマッチした活動を先進的に行おうとしていることは評価に値する。

4 法人の組織運営に関する所見

※ 財務管理の透明性、組織体制の状況など。

民間団体として、運営が不安定な組織が多く認められる中で、京都 DARC は安定的な運営がなされている。財務管理も適切かつ透明性が保たれており、引き続き、明朗な組織運営と財務管理を行うことが望まれる。

5 法人に対する支援に関する所見

※ より多くの寄附や寄附以外の支援を受けるための工夫をしているかなど。

寄付金額や寄附の実人数は漸減しているように見えるが、固定の支援者層が変わりなく寄附を行っていることは、安定運営に寄与しているものと思われる。また、インターネットを通じた寄附の呼びかけがなされているため、今後は、それをQRコード化し、チラシに印刷するなど、さらなる寄附の呼びかけを予定しているとのことである。

寄付以外にも、ホームページに動画を公開して広報に努めたり、町内会での活動やイベントへの参加を通して、顔の繋がりを作ることで地道に信頼を獲得しているものと思われる。

《評価対象法人記入欄》

6 外部評価結果への対応状況

外部評価により提言・指摘等を受けた事項に対する対応状況（今後対応する場合は対応予定）

提言・指摘等を受けた事項	対応状況又は対応予定
特になし。	

備考（審査委員会のコメント）

中学校での出前講座や大学生との交流事業など地域と連携されている点、薬物依存者本人からの相談も増え、社会的認知度が上がっているという点が大いに評価できる。
引き続き、相対値又は絶対値基準による認定の取得に向けて努力されたい。